令和８年度　　学　校　評　価　【計　画　書】　　加賀市立湖北小学校　校長　河西　敦子　印

学校教育ビジョン
・【教育目標】「自ら人生を切り拓き、共に創り、心豊かに生きる子の育成」「本気でチャレンジ！」（スローガン）
・【目指す児童像】「輝くこ：ぼくっ子　こ：心豊かに、共に創る子　ぼ：本気で学び、自ら伸びる子　く：くじけず、挑戦し続ける子」
・【基本方針】加賀市教育ビジョン「BE　THE　PLAYER」の実現のために①主任を中心とした組織の中で、各々が公務に責任を持ち、目標の具現化を図る。②いじめ・不登校に対し、全教職員の共通理解のもと組織対応を行う。③積極的に研究と修養に励み、計画的に若プロやOJTを行い指導力の向上を図る。④学校の危機に対して、研修や訓練を行い、迅速で適切な対応をとる。⑤「子どもに委ねる学び」の充実のためにSTEAM教育等の教科横断的な学習の推進を図る。⑥CSを中心に地域に生きる児童の育成を図る。
・【研究主題】
『自らの問いを持ち、考え、挑み続ける児童の育成』～生活・総合を核とした他者とつながり自らを高めていく授業実践を通して～

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	「一人ひとりが主役」の授業づくりと学力調査分析からの課題克服に向けた取組を組織的に進め、確かな学力の向上を図る。	児童が自分から学びに向かうために導入での見通しをもち、意欲を高める授業づくりをする。自分の考えを持ち、自分の思いを伝える力、自己の学びをふり返り、調整する力つけるための取組を組織的に行う。	教務主任 （北田） 研究主任 （辻）	授業改善と取組の成果として学習の基礎・基本は定着してきたが、さらに児童が自分から学びに向かう姿勢を育てていきたい。また、思考力・判断力・表現力を育てるために粘り強く学習に取り組み、自分たちで解決する経験を積んでいくことが課題である。	【成果指標】 児童が、自分から学びに向かい、粘り強く教科等のねらいを達成しようとしている。	①課題に対して自分の考えを持ち、粘り強く取り組み課題を解決しようとしていると答えた児童の割合が、 A：75%以上である。　B：70%以上である。 C：65%　以上である。D：65%未満である。 ②国語・算数の活用力テストの全学年平均が、 A：75%以上である。　B：70%以上である。 C：65%　以上である。D：65%未満である。	国語・算数の活用力テスト 7月・12月に児童アンケートを実施			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	「正しいことを実践できる自主的・自律的な個」、「正しさを共有できる集団」、「寛容な認め合いのあるあたたかな集団」を育てる。	学級での居心地の良い学級作りを意識した授業やグループトーク、学校全体での縦割り活動など、児童同士のつながりを感じられる取り組みを継続的に行う。	生徒指導 （中谷）	学校行事や委員会の企画に積極的に参加を促すことによって、達成感を持てるようにしたり児童同士の交流を増やし豊かな人間関係を作ったりしてきた。「あなたは、学校に行くのが楽しいですか。」という質問に対して、1学期は86.4%、2学期は83.2%だった。	【満足度指標】 児童が、学校に行くのが楽しいと感じている。	学校に行くのが楽しいと答えた児童の割合が、 A：90%以上である　B：80%以上である C：70%以上である　D：70%未満である	7月・12月に児童アンケートを実施			
③キャリア教育・進路指導	自分の成長やよさを認め、夢に向かって努力し、粘り強く学習できる児童を育てる。	学年に応じて、めあてをもち、責任を持って取り組んだ後、自身の学習をふり返る。また、そこで、児童のよさを認めるフィードバックを継続的に行っていく。	キャリア教育担当 （北田）	自分のよさを認めている児童の割合は、昨年度、全校で約93.6%まで上がった。さらなる向上を目指していくために、学習において責任をもって最後まで本気でチャレンジする児童を目指して、自己効力感を高める活動を進めていきたい。	【満足度指標】 児童が、自分のよさや成長を認め、高めようとしている。	自分にはよいところ、成長したところがあると答えた児童の割合が、 A：90%以上である　B：80%以上である C：70%以上である　D：70%未満である	7月、12月に児童アンケートを実施			
④保健管理	健康な生活を営むために必要な基本的生活習慣の確立を目指し、実践できる児童を育てる。	各学年の発達段階に応じた保健指導や学校保健委員会後の実践を通して、姿勢改善の意識を高めていく取り組みを実施する。	保健主事 （矢田） 養護教諭 （平井）	児童は授業中の姿勢を保持できずに、姿勢が悪くなる姿が見られる。家庭でのメディアの使用が増えている中で、姿勢の保持について考えさせたい。	【成果指標】 生活の中で姿勢をよくしようと意識し、努力しようとしている。	生活の中で姿勢をよくしようと意識し、努力しようとしている児童の割合が、 A：90%以上である　B：80%以上である C：70%以上である　D：70%未満である	7月、12月に児童アンケートを実施			
⑤安全管理	児童が安全・安心な学校生活を送れるよう、職員、児童の危機対応力及び危機回避能力の向上を図る。	火災や地震等を想定した避難訓練やシェイクアウト訓練、防犯教室を計画的に実施する。また、事前・事後の指導の徹底を図っていく。	教頭	危機管理マニュアルをもとに避難訓練や引き渡し訓練等を実施することで、教職員の危機管理意識をより高く保ちたい。	【努力指標】 訓練時において、児童・教職員が、危機管理マニュアルを理解し、それに沿った行動をとっている。	①避難訓練や引き渡し訓練時に、危機管理マニュアルに沿って安全に身を守ることができたと感じる児童・教職員の割合が、 A：90%以上である　B：80%以上である C：70%以上である　D：70%未満である	避難訓練や引き渡し訓練後、及び、7月、12月に児童・教職員にアンケートを実施			
⑥特別支援教育	支援を必要とする児童への支援・協力体制を引き続き整えるとともに、授業における個に応じた指導の工夫や充実を図る。	支援の必要な児童の現状を正確に把握するために、児童理解の会や日常的OJTを有効に活用する。また支援員と連携し個に応じたよりよい指導方法について理解し実践する。	特別支援コーディネーター （高村）	支援が必要な児童の現状把握により、個に応じたきめ細かな指導を行えるようになってきている。 今年度は、支援の在り方を協議し個別の対応を組織的に探り実践していきたい。また、教育支援員との連携や情報共有を密に行うことを通して、個に応じた指導の充実をより一層図っていきたい。	【努力指標】 教職員が、支援の必要な児童の現状を正確に把握し、個に応じたよりよい指導方法について具体的な方針を立て実施している。	①支援が必要な児童への個に応じた指導が学校全体で組織的・計画的に行われていると答えた教職員の割合が、 A：90%以上である　B：80%以上である C：70%以上である　D：70%未満である	7月・12月に教職員にアンケートを実施			
⑦組織運営・業務改善	業務の精選、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。	勤務時間記録表をもとに時間外勤務時間が年間で360時間を超えない働き方の意識を高めるとともに、ICTを活用した業務の精選・削減・平準化を実践する。	教頭	担任減による教職員業務の負担が増加したため、よりICTを積極的に活用し、業務の効率化を図り各自が自分の働き方を見直していく必要がある。	【成果指標】 教職員が、ICTをより効果的に活用することを通して組織の一員として、計画的に自分の業務に取り組んでいる。	改善を図りながらICTを活用し業務を効率的に行おうとしていると答えた教職員の割合が、 A：90%以上である　B：80%以上である C：70%以上である　D：70%未満である	7月・12月に教職員にアンケートを実施			
⑧研修	目標の達成に向かって、子ども達が粘り強く取り組める姿が見られる授業を目指す。	教師の対話を大切にした協働的な授業研究の中で、課題を共有し、児童の姿で語る授業研究会での研修を深める。	研究主任 （辻） 若手プロ担当（北田）	お互いの考えを率直に出し合う対話ができる集団作りを目指し、研修会ごとにテーマを決めて対話を実践している。探究学習について教師がどのようにかかわっていくかについて学び合っている。	【満足度指標】 教職員が、校内研修会や若手研修会の内容を授業づくりや指導全般に役立てている。	校内研修会や若手研修の内容が、授業づくりや日々の指導に役立っていると答えた教職員の割合が、 A：90%以上である　B：80%以上である C：70%以上である　D：70%未満である	7月・12月に教職員にアンケートを実施			
⑨保護者、地域との連携	コミュニティ・スクール（CS）やPTAと連携しながら、保護者や地域とのつながりによって、学習を中心とした教育支援活動を進める。	CSの働きかけにより、保護者や地域の方々と学校をつなぎ、児童の学習支援や教職員の授業補助、学校環境整備等を計画的に行う。	教頭	CSコーディネーターを中心として、PTAとも連携し、年間を通して学年に応じた湖北っ子応援隊の教育支援活動を機能させきめ細かな学びにつなげていきたい。	【努力指標】 CSやPTAが学校のニーズに応える取組を実施しようと努めている。	CSを通じて湖北っ子応援隊が種々の教育支援活動を行っていると答えた教職員の割合が、 A：90%以上である　B：80%以上である C：70%以上である　D：70%未満である	7月・12月に教職員にアンケートを実施			
⑩教育環境整備	ICTや学びの空間デザインを活用し、「子どもが主役」の学びの場を整える。	ICTや学びの空間デザインを活用し、児童が生き生きと学ぶことができるように環境整備を行う。	教頭 GIGA担当（矢田）	加賀市の教育目標実現のために、ICTを活用するだけでなく、昨年度から取り入れた学びの空間デザインを生かした授業を積極的に行う。	【努力指標】 ICTや学びの場を使い、自分の学びや協同的な学びを進めようと努めている。	積極的に、ICTや学びの場の活用を授業の中で取り入れたと答える教職員の割合が、 A：90%以上である　B：80%以上である C：70%以上である　D：70%未満である	7月・12月に教職員にアンケートを実施			

学校関係者評価	